

令和7年度 福岡県学力調査結果の概要



福津市教育委員会

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、小学5年生の児童と中学1年生・2年生の生徒を対象として福岡県が実施したものです。小学5年生・中学1年生は、国語、算数・数学の2教科で、中学2年生は、国語、数学、英語の3教科で実施し、福津市では、小学5年生は令和7年5月19日に、中学1年生は令和7年5月22日に、中学2年生は令和7年5月23日に実施いたしました。

今年度は実施したすべての教科において、タブレット端末等一人一台端末を使用して行い（CBT：Computer Basted Testing）、IRT 追跡型学力・学習状況調査で実施しています。

本調査結果は、福岡県から、8月末に各学校に、9月18日に市町村教育委員会に提供されましたので、調査結果の概要を公表いたします。

令和7年度 福岡県学力調査結果

1 福岡県学力調査について

本学力調査は、小学5年生・中学1年生は国語、算数・数学、中学2年生は国語、数学、英語について行いました。出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校調査1年生においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識・技能」に関する問題及び主として「思考・判断・表現」に関する問題を一体的に問う問題として構成されています。

また、今年度は実施したすべての教科において、タブレット端末等一人一台端末を使用して行い（CBT：Computer Based Testing）、IRT追跡型学力・学習状況調査で実施しています。

IRT追跡型学力・学習状況調査とは、以下のような学力調査です。

（※IRT：Item Response Theory 項目反応理論）

- 一つ一つの問題について難易度が設定されています。
- 様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで学力を診断します。

学力調査をCBTで行うメリットとしては以下のようなことが挙げられます。

- 動画を活用した問題など、実際の学習場面に即した問題が出題できます。
- 正誤の状況や、問題ごとの解答時間も記録・分析することができます。

2 教科区分毎の標準化得点

※ 標準化得点・・・県の平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと

（1）小学校 5年生

	国語	国語 知識・技能	国語 思考・判断・表現	算数	算数 知識・技能	算数 思考・判断・表現
福津市	107.2	105.0	111.1	105.6	104.9	106.5
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（2）中学校 1年生

	国語	国語 知識・技能	国語 思考・判断・表現	数学	数学 知識・技能	数学 思考・判断・表現
福津市	108.1	105.8	112.4	104.3	104.4	103.5
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 中学校 2 年生

	国語	国語 知識・技能	国語 思考・判断・ 表現	数学	数学 知識・技能	数学 思考・判断・ 表現	英語	英語 知識・技能	英語 思考・判断・ 表現
福津市	107.6	107.4	108.4	110.5	109.8	111.9	111.4	110.3	114.0
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

なお、表内の数値は、各教科区分における平均正答率を示していますが、これらの数値は、あくまでも学力の特定の一部であり、本市の教育活動全てを評価するものではありません。

3 調査結果を受けて

本市の中学2年生の数学、英語において、福岡県の平均を上回っています。小学5年生の国語、算数と中学1年生の国語、中学2年生の国語については、福岡県の平均をやや上回っています。中学1年生の数学については、福岡県の平均とほぼ同じ結果となっています。

「知識・技能」においては、中学2年生の英語において福岡県の平均を上回っています。小学5年生の国語や中学1年生の国語、中学2年生の国語、数学において、福岡県の平均をやや上回っています。小学5年生の算数、中学1年生の数学においては福岡県の平均とほぼ同じ結果となっています。

また、「思考・判断・表現」においては、小学5年生の国語、中学2年生の数学、英語において福岡県の平均を上回っています。小学5年生の算数や中学1年生の国語、中学2年生の国語においては福岡県の平均をやや上回る結果となっています。中学1年生の数学に関しては、県の平均とほぼ同じ結果となっています。

以上の結果につきましては、概ね福岡県の平均を上回り、各学校の学力向上に関する取組によって、一定の成果が出ていると考えられます。しかし、学校や学年、教科や分野によって、定着に課題が見られるものもありました。

今後は、各教科区分の結果分析や各学校の詳細な分析等を行うとともに、市内の学校において効果的な指導方法を他の学校と共有しながら、学力向上の組織的な取組を一層推進していきたいと考えています。

そして何より、子どもたちが自分自身の現在の学力や学習の状況だけでなく、自分の成長を自覚し自信を深めていくことを大切にした教育を推進してまいります。